

科目名 母性看護学実習 時間割表記名 母性看護学実習	配当時期 2年生後期 単位数 2単位 時間数 90時間(10日間)	講義担当者 濱崎友実
<p>事前学習内容</p> <p>①妊婦期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・精神的・社会的特徴と看護</p> <p>②女性のライフステージ、女性特有の疾患・症状、婦人科外来における診療介助</p>		
<p>科目全体のねらい・授業目標</p> <p>【実習目的】</p> <p>1. 周産期各期にある対象の特徴を理解し、対象がより健康に適応できるように必要な看護実践能力が習得できる。</p> <p>2. 女性のライフステージ各期における健康問題を理解し、必要な看護支援を習得できる。</p> <p>【実習目標】</p> <p>○周産期実習</p> <p>1. 妊婦の特徴と健康診査、健康教育の必要性が理解できる。</p> <p>2. 正常な分娩経過を理解し、産婦の看護が理解できる。</p> <p>3. 褥婦の特徴および正常な産褥経過の理解ができる。</p> <p>4. 褥婦のセルフケア能力やサポートシステムに応じた援助が理解できる。</p> <p>5. 新生児の胎外生活適応と生理的特徴を理解し、必要な看護実践ができる。</p> <p>6. 正常から逸脱した妊産褥婦および新生児に対する看護について理解できる。</p> <p>7. 周産期にある対象の看護を通して、自己の母性観または父性観を深めることができる。</p> <p>○婦人科外来実習</p> <p>1. 婦人科外来を受診する女性特有の悩みや健康障害について理解できる。</p> <p>2. 女性が自分の心身の状態を把握し、自己コントロールできるための支援のあり方を考えることができる。</p>		
<p>DPとの関連</p> <p>DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。</p> <p>DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。</p> <p>DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。</p> <p>DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。</p> <p>DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。</p> <p>DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>女性のライフステージ各期における看護について理解することを目的に、実習オリエンテーション、シャドウイング、対象との関りを通して、周産期各期にある対象の特徴の理解や対象がより健康に適応できるように必要な看護実践能力を身に着ける。また、女性のライフステージ各期における健康問題と看護の必要性について理解する。</p> <p>実習では、周産期の看護と婦人科外来の看護について理解を深める。</p>		

周産期実習では、産科病院(産科病棟・外来)で実習を8日間行い、妊婦・産婦・褥婦・新生児との関りを通して、周産期各期における身体的・精神的・社会的特徴について理解し、必要な看護を実践する。また、生命の尊さについて考え、自己の母性観・父性観を深める機会とする。

婦人科実習では、婦人科外来で2日間実習を行い、婦人科を受診する女性特有の悩みや健康障害について理解し、女性が自分の心身の状態を把握し、自己コントロールできるための支援のあり方について学ぶ。

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

- ①系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院
- ②系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院
- ③看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メヂカルフレンド社

参考文献

- ①ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第2版 医学書院
- ②写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ